



《教育長メッセージ 第 83 号》

『第 3 期えびなっ子しあわせプラン③』

それでは、シリーズの最後として、「第 3 期えびなっ子しあわせプラン」の 3 つめの柱である

③ 特色ある学校づくりの推進
について、説明します。

私としては、この職に就いた直後から、学校のあり方については、「おらが学校」（教育長の部屋 64 号）というめざすべき姿を掲げて取り組んできました。

「おらが学校」とは、私が、東北の田舎の出身であり、町の大人たちが地域の学校に愛着をもって暮らしていたこと、教員として、有馬小学校の 100 周年の機会を得て、記念誌をまとめる中で、関東大震災後でしょうか、地域の方々が学校再建のために棟上げをして、その柱に座って誇らしげに記念写真におさまった姿から、学校が地域に支えられていると感じたことから、学校が、地域の子どもや大人から、自分たちのたいせつな場所として、愛される場所になることをイメージしたものです。

また、私は、大げさかもしれませんが、「このままでは、学校は社会（地域）から取り残されてしまう」のではないかと、危惧していました。

まずは、「学校は敷居が高い」「学校の常識は世間の非常識」という声が聞かれ、それを払拭しなければと考えました。

そのため、これまで、学校応援団の設立、コミュニティ・スクールの導入を進めてきたところです。

そして、私の学校のあり方のイメージは、「おらが学校」から「みんなの学校」（教育長の部屋 65 号）へと進化・深化しているところです。

そのような私の基本的な考え方を前提として、第 3 期の 3 つめの柱を「特色ある学校づくりの推進」としたところです。

具体的には、

◇カリキュラムマネジメントの実践

◇学校運営協議会、PTA や学校応援団等と連携・協働した学校運営

◇地域から支援され応援される学校づくり

を進めます。

私は、特色ある学校づくりとは、特色を作るための学校づくりではなく、子どもたちのために、地域に住んでいる人々のために、自分たちの学校はどのような学校であるべきかを校長のリーダーシップのもと、教職員で話し合い、保護者や地域の代表者の方々からも意見を聞き、そのための学校運営を学校・家庭・地域が協働して行うことにより、結果として、特色が生み出されると考えるところです。

また、教育委員会は、学校ごとのカリキュラムマネジメントの作成を支援し、予算面での学校の裁量権を拡充する必要があると考えています。

これから、学校・家庭・地域・行政が、それぞれの役割を果たし、連携・協働して、海老名市立小中学校の学校ごとの「特色ある学校づくり」を推進します。

多くの方々のご支援をお願いします。

次回は、『教育長』と題して、私の思いを述べてみたいと思います。